

建

設分野の優れた作り手は、また鑑賞の名
人だったりもする。休みや出張の合間に
でも、気になっている建築物を訪れたり、町並
みや土木構造物を眺めたり、仕事と直接に関係
なくとも足を運んで、あれこれと考えるのが好
きという方も少なくないだろう。そんな楽しみ
を、作り手以外の方にもっと届けられたら、建
設業界にとっても実りが多いと思うのだ。

今年三月九日に「オープンしなけん」という
建築物の公開イベントを実施した。「しな」は品
川区、「けん」は建築物。「オープン」という言
葉には、普段は入れない建築物がこの日に公開
され、その背景や作り手の顔が明らかになると
いった趣旨を込めた。

品川区は人口約四〇万人。目黒川が東京湾に
注ぎ、西部の台地から東部の沖積地、埋立地ま
で変化に富んだ地形だ。そんな自然の条件から、
品川宿をはじめとした交通の要衝としての繁栄
が生まれ、住宅地、工場地、オフィス街などの
多様性が各区域で育ち、今も変貌を続けている。

昨年度、筆者が理事の一人を務める一般社団
法人東京建築アクセスポイントが、品川区都市
環境部建築課の公示した「品川区歴史的・魅力
的建築物調査等業務委託」を受託したことで
「オープンしなけん」が始まった。

日本最大の建築公開イベントとしては、二〇
一三年にスタートした生きた建築ミュージアム
事業の一環である「生きた建築ミュージアムフ

各 人 各 説

広がれ、建築物の公開イベント

大阪市立大学 大学院工学研究科 准教授

倉方俊輔

Shunsuke Kurakata



エステイバル大阪」(略称「イクフェス大阪」)
が知られる。日本建築学会賞(業績)を二〇一
七年に受賞し、昨年度は二日間の会期を中心に、
四万三〇〇〇人が参加した。これにも筆者が立
ち上げから関わっている。

「オープンしなけん」は、特別区が実施する日
本初の公開イベントだ。大阪にはまだ及ばない
が、また違った、確かな手応えが得られた。

初年度に公開したのは八件。赤煉瓦造の工場、
磯崎新の茶室、木造の東急池上線戸越銀座駅な
どが含まれる。所有者のご理解とご協力のおか
げで、それぞれの多彩な魅力が開かれ、時代背
景、作り手の物語、各区域の特性などを、延べ
一、五〇〇人弱の皆さまが思い思いに巡り、鑑
賞していた。来訪者の関心を受けて、所有者が
その意味を再認識されるといった意義も大きい。
二回目は今年十一月三十日に開催の予定だ。
並行して実施している数百件の区内の建築物調
査をもとに、埋め立て地や再開発物件など建設
との関わりを更に深め、個別のスポットの集積
から区の個性を浮かび上がらせていきたい。

公開を通じて、参加者は建築物に理由があり、
技術と思いが込められていることを楽しみなが
ら知れる。建設業界から社会への直接的な働き
かけに見えないことで、かえって建設分野の理
解を促すのだ。どの区でも、エリアでもできる。
建築物の公開イベントが更に一般化するために、
ご理解とご支援をいただければ幸いである。